

○ムラサキチャワンタケ(新称) (小林義雄) Yosio KOBAYASI: *Phillipsia subpurpurea* Berk. et Br. (図版 XVII の下図)

チャワンタケの仲間では大型肉厚の部類であり径 6 cm 以上になる。下面は白っぽいのが上面は美しい紅紫色である。しかし成熟の度合いなどで必ずしも一様でないことは写真で判る。オーストラリアのブリスベン産の菌に基いて 1883 年に発表されて以来、熱帯地方に広く分布していることが判った。1948 年 9 月 18 日に秩父雁坂峠附近の針葉樹枯枝に生じて居るのを採り、その後 10 年を経て Korf 博士により上記の種と同定して貰った。その分布の特異なのに驚いた次第である。1961 年秋に Korf 博士とともに屋久島へ菌類採集を試みた際に尾之間、安房、吉田等で再びこの熱帯種を見出した。プレート XVII の下図は安房産の生鮮な菌である。(国立科学博物館)

*Phillipsia subpurpurea* Berk. et Br., a tropical fungi, was recently found at two stations in Japan; Karisaka Pass, Titibu Mountains, central Honshu, and Isl. Yakusima, Kyushu. Pl. XVII (lower fig.) shows fresh materials from Isl. Yakusima.

○*Circaeaster* の染色体の意味 (前川文夫) Fumio MAEKAWA: Chromosome number of *Circaeaster* may be a relic of major polyploidy in old Ranalian stock

最近 Foster 教授が (Journ. Arnold Arboretum 44 No. 3: 299-321 (1963)) この類の開放二分枝脈を追及した論文で論じておられるように、この植物は一介の草本ではあるがはなはだ系統上興味のある植物である。ヒマラヤ山系から雲南、西康、四川、甘肅、陝西と高山に分布し、高さ 6 cm 位の赤い茎のてっぺんに子葉を宿存しながら数枚の葉をも傘状にひろげた愉快な恰好をした珍らしいものだが、二分枝脈を見事にくりかえす葉脈の形式ははなはだ特殊である。その点だけは同じく Foster 教授が以前に評論された *Kingdomia* と似たところがあるが他の点ではひどくちがう。この染色体数については Darlington の染色体数表第 2 版にもものっていないのであきらめていたところ、最近訪日された Foster 教授におあいした折に話がそこにおよんだところ、たまたま同教授から Junell, S. の Svensk Bot. Tidskr. 25: 238-270 (1931) の本属の細かい形態を論じた論文を見せて頂いたが J 氏がすでに  $n=15$  と明記し、美しい図も発表していることがわかった。この数は私には驚きであった。というのはすでに本誌 36: 385-388 (1961) や東大理学部紀要 8-10: 377-398 (1963) でのべたように先行倍数性の一つとして多心皮類において 5-10-15-20 の基本的な倍数性の存在が考えられ、その 15 と *Circaeaster* とが結びつく可能性が高いと思われたからである。多心皮類のこの先行倍数性に近い数を今も保っているのはほとんどが本植物であって、草本はわずかにボタン属の中のシャクヤク系だけであった。*Circaeaster* の開放二分枝脈の存在はそれが草本であるにかかわらず relic であることは Foster 教授もすべておられる。もしもこの 15 が先行倍数性の中の 15 そのものであればはなはだ貴重な実例をえたことになる。何故ならば今のところ 15 そのものを示す例はみつかっていなかったからである。

終りに貴重な討議の時間と文献の借覧とを与えられた Foster 教授に深謝する。

(東大理学部植物学教室)